

令和3年度地域の絆づくり事業 第2回講座

「和菓子をとoshita人づくり、地域づくり」

令和3(2021)年12月25日(土) 10:00~12:00

菓匠 紫香庵 (参加者15名)

1. ゲスト 須賀良知 氏のお話

＜和菓子づくりを多くの人に体験してもらうには＞



○日本の文化と和菓子

- ・日本の文化に和菓子は密接に関係していた。
例) お祝いの紅白饅頭、餅、蓮型のお供え菓子など
- ・それらの文化や芸術(技術)が少しずつ消えている。
- ・県内の和菓子屋も、年に数軒ずつ廃業していつている。
- ・文化芸術を残していくことに貢献したい。

○和菓子への敷居を下げる！

- ・和菓子づくり体験教室を開くことにしたが、はじめは年に1回程度の依頼のみ。
- ・長年事業を継続することで、多い時には月に15、6回開催できるようになった。
- ・和菓子キットの販売やオンライン和菓子づくり体験の開催で裾野を広げていく。
- ・海外とのつながりも広げていきたい。

＜小学校での実践＞

○ものづくりをとoshite子供たちに伝えたいこと

- ・作業を的確に行うために、「しっかり聞く」「指先を見る」
- ・素直な気持ちで作業に入る。我が出すぎるといいものがない。
- ・人相手の仕事の経験から、世の中で必要な力を身につけてほしい。

○目的をもった子供はすごい

- ・目標や目的があれば、子供は進んで取り組むことができる。
- ・早い段階でめざすものを見つけられれば、その分長く努力できる。

○手伝いをする=判断能力が育つ!?

- ・手伝うためには、内容を理解し、行動するという判断が必要になる。
- ・その判断ができるようになるためには、手伝いの経験が必須。

2. 和菓子づくり体験

(1) 練り切りの着色



(2) 餡を包む



(3) 成形



3. 座談会

○キーワード

体験からわかること、「できない」に挑戦すること、人とのつながり、聞く人に伝わる話、
○○をなんとかしたい、人の話を聞く、好奇心、後継者問題

<子供の育ちについて>

- ・体験してみないとわからないことがある
- ・「人の話を聞く」大切さ
- ・説明書を自分で読めるか
- ・好奇心をくすぐる活動
- ・ジャンケンだけでも楽しめる
- ・どこかで必ず人とのつながりができる

<地域で活動する大人として>

- ・聞く人に伝わる話ができているかどうか
- ・長年の経験や思いが商品に表れる
- ・新しい自分を発見し、これからの和歌山のために
- ・荒れている山をなんとかしたい
- ・なくしてはならない伝統を伝えていくこと

<須賀氏から>

- ・後継者問題に不安はある
- ・つくる楽しさを伝え続けることで誰かが引き継いでくれればそれでいい
- ・そのためには、技術やつくり方を全て公開してもいい
- ・「人生は振り子時計」いいことも悪いことも戻ってくる
- ・聞く耳をもち、心で考える習慣をもつことで、自分の考えに固執しないように
- ・間違えたときも素直に考え、相手にとって良い方向をめざす
- ・「役に立つ実感」が人を育てる



4. 振り返りシートから

○今日の「学び」

- ・本日学んだ技術は、確かな知識と温かい心に裏打ちされた技術であると思う。素直な心を学んだ。
- ・説明するときの方法として、人の注目を集める、おもしろいエピソードを入れる方法がある。どこかで人と人とのつながりが活きていると思う。
- ・人の話を良く聞くことを学んだ。
- ・体験して知ることの大切さを改めて感じた。“ほんまもん体験”のできる和歌山での体験学習をとおした人とのつながりに期待したい。人の話を聞くこと大切さ、子供たちに早く目的をもってもらうということの大切さに気付かされた。
- ・和菓子講座を積極的にやられているのを知ることができてよかった。また自分の活動場所でもお願いしたいと期待してしまった。
- ・最近思うことは、人と人とのつながりは本当に有難く、大切にしたいということ。今日は一層そう感じた。
- ・職員さんの対面に座ったが、職員さんの配慮には頭が下がる。レベルが高い。これからもそのような配慮があれば、この事業も発展すると感じた。

○今後の活動について

- ・じゃんけんゲームは、関わっている子供たちに対して行える。
- ・社会教育と生涯学習の重要性を考え、地域での交流を進めていきたい。
- ・地域で活躍されている方々との協働による事業を行い、地域からの発信力を高めていきたい。
- ・げんきの森には、わらび粉・くず粉・かしわもち用のサルトリイバラなど、和菓子に使える素材がいろいろある。現地産の素材での和菓子づくり体験など楽しそう。
- ・森林インストラクターとして勉強中で、自分の知識・話し方・人との接し方など、多方面で本日の学びを活かしていきたい。
- ・郷里にどのような方々がいるかを知りたいと思う。人を知る活動を続けたい。